

## 令和 6 年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	11	学校名	茨城県立太田西山高等学校					課程	全日制		学校長名	菊池 幸恵				
教頭名	片根 満保					事務長名	川松 美和									
教職員数	教諭	30	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	11	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	6	計	57
生徒数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	37	35	39	34	65	64			141	133		10			

## 2 目指す学校像

- 1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校
- 2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校
- 3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校
- 4 地域に愛され、信頼される学校

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	人間力を高め、地域を支え活躍する人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	主体的に学び続けることのできる生徒

## 4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の87%が、各教科の学習指導に関して様々な工夫がなされていると感じており、生徒の85%が授業はわかりやすいと考えている。</li> <li>生徒は授業に前向きな態度で取り組んでいるが、家庭学習を行っている割合は68%であり、定期考査等では基礎学力の不足や継続的な家庭学習の不足が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習習慣の定着を図るための適切な支援のあり方を考える必要がある。</li> <li>ICTの利活用等を通して、個別最適な支援を行い、基礎学力の定着や応用力の育成を図る。</li> <li>探究的な視点からの授業展開を工夫する必要がある。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者等の83%は、本校の進路指導が充実していると感じており、生徒の91%は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。</li> <li>生徒の多様な進路希望に対応した、進路情報の提供や進路指導を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導のさらなる充実を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな進路指導を継続する。</li> <li>将来を見据えた上での3年間の進路指導を計画的に実施し、社会とのつながりを意識したキャリア教育を推進する必要がある。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者等の46%は、本校生の通学マナーをあまり良くないととらえている。また、47%が挨拶もあまり良くできてはいないと感じている。</li> <li>校内ではルールやマナーを守って生活ができている状況ではあるが、多</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナーの向上や基本的な生活習慣の確立を図るため、全職員の共通理解と保護者等との協力体制を基盤に、指導を継続していく必要がある。</li> </ul>

	様な生徒に対応した、個別の継続的な指導・支援が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解のための個別面談を充実させるなど、生徒の心に寄り添った支援体制を継続していく。</li> <li>問題行動等の未然防止と早期対応に力を入れるとともに、外部機関と連携を図りながら、組織的な対応を充実させる。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で定着したオンラインによる集会を継続して実施し、かつ学校行事や生徒会活動を内容を精選して実施した。</li> <li>生徒会が自主的にスポーツフェスティバルや地域清掃ボランティア活動の企画と運営を行った。また、卒業式や入学式で校舎内を装飾するなど独自の企画を考え、実施した。</li> <li>生徒が部活動紹介動画を作成するなど主体的に活動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な活動を支援し、自己有用感や自己肯定感を高めていく。その際キャリアパスポートを活用し、組織的な支援体制を確立させる。</li> <li>生徒会活動や委員会活動における生徒の自主的かつ主体的な活動の支援を継続する。</li> <li>部活動において複数顧問体制を継続し、質が高く効果的な活動を目指す。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日（月曜日）と完全退庁時間（19時）を設定した。</li> <li>時間外在校時間の月平均時間は18時間12分、45時間超過者の割合は0.0%、80時間超過者の割合は0.0%であり、数値的目標は達成した。</li> <li>ICTを活用した連絡や報告ならびに各種調査等を実施し、業務の効率化を図った。</li> <li>生徒の欠席連絡にGoogleFormsを活用したり、放課後の電話対応を18時30分までにしたりするなどして、朝夕の業務の軽減を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>完全退庁時間は概ね守られているが、定時退勤日が徹底されていないため、管理職による声かけや個別面談を引き続き行っていく。</li> <li>業務の連絡や報告、各種調査等においてICTの活用を積極的に行っていく。</li> <li>業務負担の均一化を図り、各分掌において業務内容の精選を継続していく。</li> </ul>

## 5 中期的目標

- 3年間を通して、ライフスキルの向上を目指す取組を実施するとともに、生徒一人ひとりに応じた教科指導等及びキャリア教育の充実に努め、多様な進路希望の実現を目指す。
- 社会に参画する力を高めるため、特別活動（体験活動・生徒会（常任委員会・ホームルーム））等や部活動を通じて、自己有用感や自己肯定感を高めさせるとともに、他者を尊重し、協働する教育活動の充実に努める。
- 主体的・対話的で深い学びを促進するため、生徒の自発的な活動を重視し、ICTを活用した授業の推進に努める。
- 働き方改革を推進するため、ICTを活用して業務の効率化を図り、業務内容を精選し、在校等時間の削減に努める。

## 6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した授業展開を通して、基礎的知識及び技能の向上と学習意欲の向上に努める。               <ol style="list-style-type: none"> <li>ICTの利活用等を踏まえ、深い学びを実現するための授業改善の推進。</li> <li>基礎的な知識および技能の定着と、探究活動による思考・判断・表現する力の育成。</li> <li>ICT教育推進委員会を中心とした、授業におけるICTを活用した授業展開と家庭学習の定着。</li> </ol> </li> </ul>
2 キャリア教育の推進による、生徒一人ひとりに適した進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じたきめ細かな進路指導を充実することで、生徒一人ひとりに適した進路の実現に努め、生涯にわたって充実した生活を送るための基盤を作る。               <ol style="list-style-type: none"> <li>ライフスキル教育を基盤としたコミュニケーション力ならびにキャリア教育の充実。</li> <li>キャリアパスポートを活用した自己分析力や自己管理能力の育成。</li> <li>多様な進路の実現に向けた進路情報の提供や組織的で体系的な進路指導の促進。</li> </ol> </li> </ul>
3 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導と、問題行動の未然防止を重視した指導により、生徒の「自律」から「自立」を育む。               <ol style="list-style-type: none"> <li>問題行動の未然防止を重視した、学校内外における組織的な指導の推進。</li> <li>全教職員による一体感とスピード感をもった指導体制の構築。</li> <li>他の機関と連携した、個に応じた生徒支援の推進。</li> </ol> </li> </ul>

4 シティズンシップ教育の推進による、主体的に社会の形成に参画する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスキル教育を通して、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動を通して、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚と、課題を見つけ他者と協働して解決する能力を育み、社会の形成に参画できる資質・能力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の主体的・自主的なHR活動・生徒会活動・学校行事等の支援。</li> <li>②カウンセリングマインドをもって傾聴する個別面談や教育相談体制の充実。</li> <li>③シティズンシップ教育の充実により課題解決に向けた主体的な活動の支援。</li> </ul> </li> </ul>
5 地域、保護者等との交流・連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を活用して、地域への理解や地域の課題を探究する。また、地域に信頼される学校を目指して、地域の方や保護者等と連携し、理解が得られるように努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者等との緊密な連絡と連携。</li> <li>②中学校訪問や学校説明会及びHP等による情報の発信。</li> <li>③探究的な学習の時間において地域の方との連携による地域理解の促進。</li> </ul> </li> </ul>
6 ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校時間において「月平均15時間以内」と「月平均45時間超過者の連続ゼロ」を目標に、業務の効率化と精選ならびに業務負担の均一化を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①定時退勤日および完全退勤時間遵守に向けた声かけと個別面談の実施。</li> <li>②ICTを活用した業務の効率化（各種調査等のICT化）とICT教育の推進（反転学習や確認テストの配信等）。</li> <li>③業務内容の精選と負担の均一化の促進。部活動時間の遵守に向けた声かけと個別面談の実施。</li> </ul> </li> </ul>
7 ICTの利活用等を踏まえた深い学びを実現する授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価を活用し授業改善を促進する。以下①～③が数値目標。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた」平均3.5以上。</li> <li>②「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた」平均3.5以上。</li> <li>③「授業の目的が明確で、授業内容がわかりやすく工夫され、興味関心が向上した」平均3.5以上。</li> </ul> </li> </ul>